

市民科に関する児童・生徒、教員調査について（結果、分析・考察、今後に向けて）

令和8年3月11日
教育総合支援センター
教育施策推進担当

【市民科に関する児童・生徒、教員調査について】

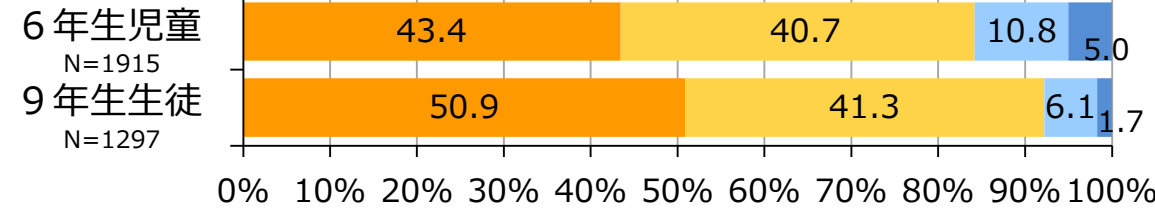
- 1 調査の目的 … 区の独自教科として、市民科をより発展的に推進していくために、持続可能な内容、体制づくりを検討できるためのものとする。各校の状況を把握し、日々の授業改善に生かすことができるようにする。
- 2 調査項目 … 児童・生徒：市民科について（選択・記述） 教員：市民科について、市民科の授業の状況について（選択・記述）
- 3 調査時期 … 児童・生徒：令和7年11月10日（月）から令和7年12月18日（木） 教員：令和7年11月6日（木）から令和7年12月18日（木） ※Formsで実施
- 4 調査人数 … 小学校・前期課程6年生：1,915人 中学校・後期課程9年生：1,297人 ※小学校、中学校、義務教育学校の最高学年を対象
小学校・前期課程教員：683人 中学校・後期課程教員：238人

1 市民科について（児童・生徒、教員調査）

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

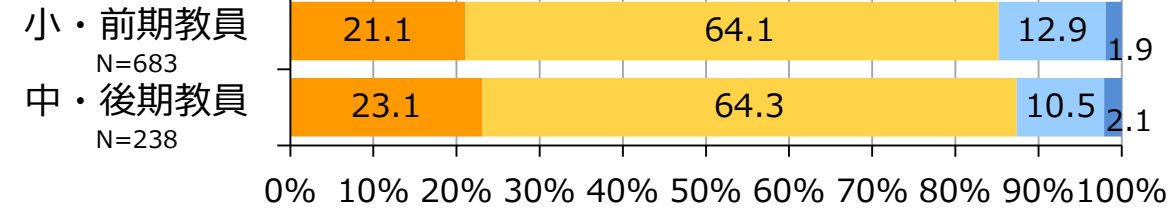
【子-1 自己管理領域】

6年…計画的に生活を送ることができるようになった。
9年…自己の日常生活における課題を解決しながら、自主的・自律的な生活を送ることができるようになった。



【教-1 自己管理領域】

子どもたちは、基本的な生活習慣や社会的マナーについて理解し、よりよい行動をすることができるようになっている。

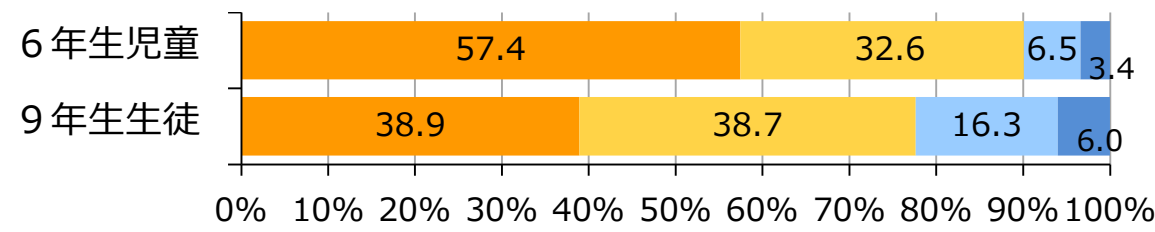


【肯定的回答割合】

6年生児童…84.1%
9年生生徒…92.2%
小・前期教員…85.2%
中・後期教員…87.4%
【傾向】
・肯定的回答の割合が、どれも80%を超えている。
・9年生、中・後期になると肯定的回答の割合増加

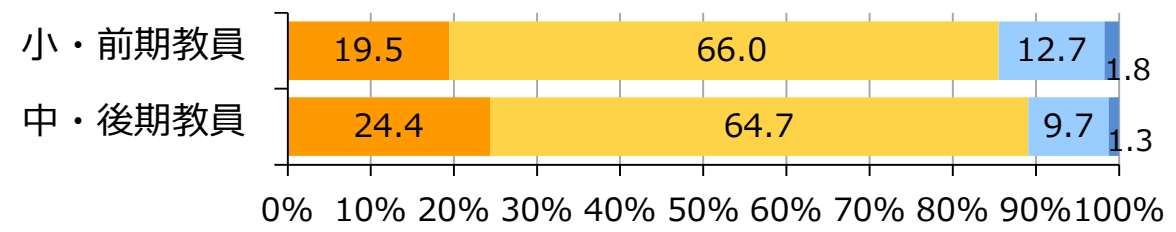
【子-2 人間関係形成領域】

6年…友達と望ましい人間関係を築くことができるようになった。
9年…地域の様々な人たちと関わり合い、信頼関係を築くことができるようになった。



【教-2 人間関係形成領域】

子どもたちは、自分や友達、周囲の人たちのことを理解し、望ましい人間関係を築くことができるようになっている。

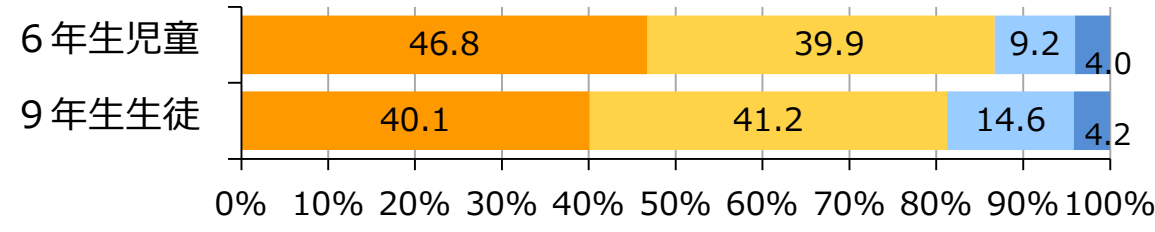


【肯定的回答割合】

6年生児童…90.0%
9年生生徒…77.6%
小・前期教員…85.5%
中・後期教員…89.1%
【傾向】
・9年生の肯定的回答の割合が減少し、80%をきっている（友達→地域）

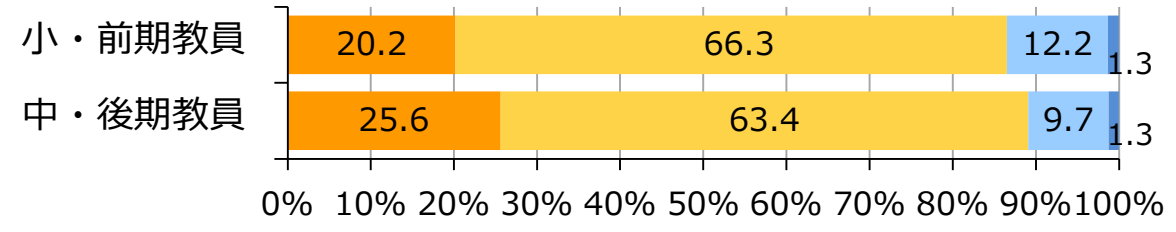
【子-3 自治的活動領域】

6年…学校や学級をよりよくするために活動できるようになった。
9年…学校生活や地域社会を豊かにするために、主体的に活動できるようになった。



【教-3 自治的活動領域】

子どもたちは、自分の役割や責任を理解し、進んで行動することができるようになっている。

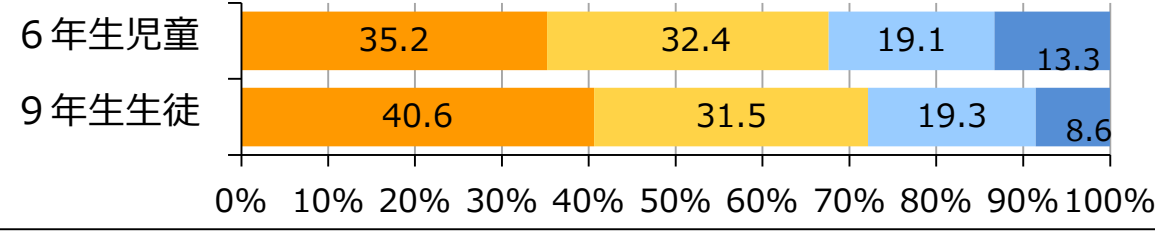


【肯定的回答割合】

6年生児童…86.7%
9年生生徒…81.2%
小・前期教員…86.5%
中・後期教員…89.0%
【傾向】
・9年生の肯定的回答の割合が減少している（学校や学級→学校生活や地域社会）

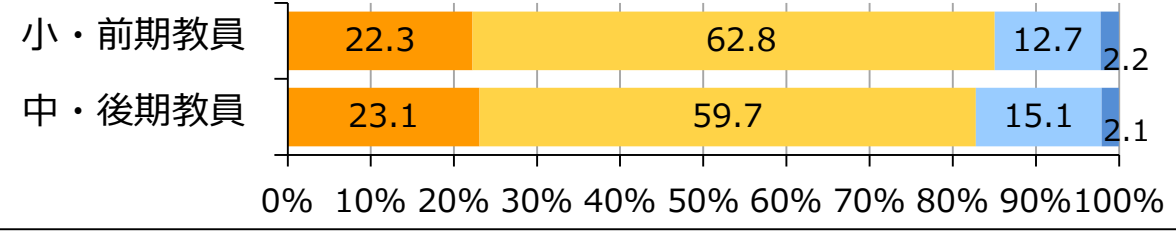
【子-4 文化創造領域】

6年…学校や地域の行事に進んで参加できるようになった。
9年…地域の行事や文化的なイベントに積極的に関わることができた。



【教-4 文化創造領域】

子どもたちは、様々な伝統や文化を知り、学校や地域の様々な活動において、進んで関わることができるようになっている。

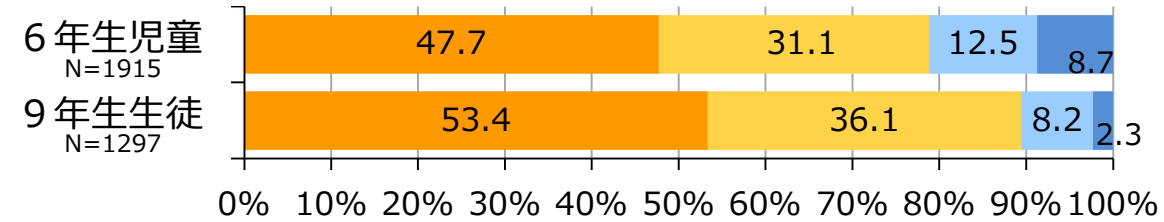


【肯定的回答割合】

6年生児童…67.6%
9年生生徒…72.1%
小・前期教員…85.1%
中・後期教員…82.8%
【傾向】
・児童・生徒の肯定的回答の割合が約70%となっている（9年生になるとその割合は増加）。

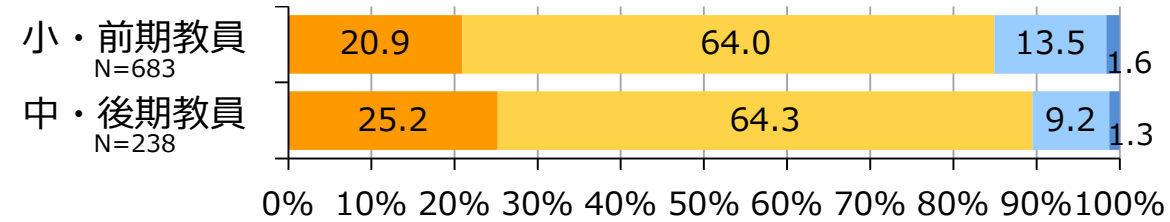
【子-5 将来設計領域】

6年…自分の将来について考えることができるようになった。
9年…自己の進路について考え、夢や目標をもつことができるようになった。



【教-5 将来設計領域】

子どもたちは、自分の将来や進路について考え、夢や目標をもつことができるようになっている。

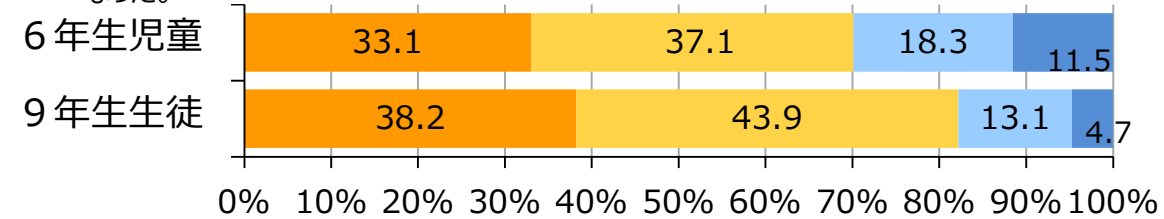


【肯定的回答割合】

6年生児童…78.8%
9年生生徒…89.5%
小・前期教員…84.9%
中・後期教員…89.5%
【傾向】
・6年生の肯定的回答の割合が80%をきっている。
・9年生、中・後期になると肯定的回答の割合増加

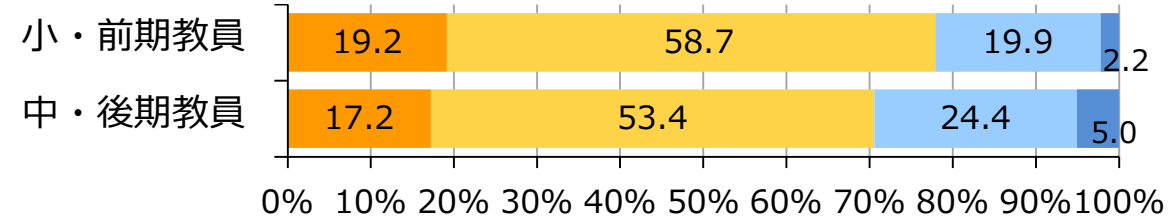
【子-6 市民科全般①】

6年…自分の住んでいる地域や品川区への興味・関心をもつことができるようになった。
9年…自分の住んでいる地域や品川区への理解を通して親しみをもつことができるようになった。



【教-6 市民科全般①】

子どもたちは、自分の住んでいる地域や品川区への愛着、興味・関心をもつことができるようになっている。

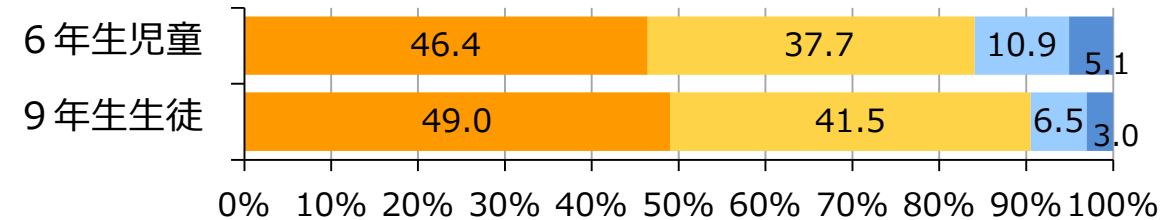


【肯定的回答割合】

6年生児童…70.2%
9年生生徒…82.1%
小・前期教員…77.9%
中・後期教員…70.6%
【傾向】
・9年生以外、肯定的回答の割合が80%をきっている。

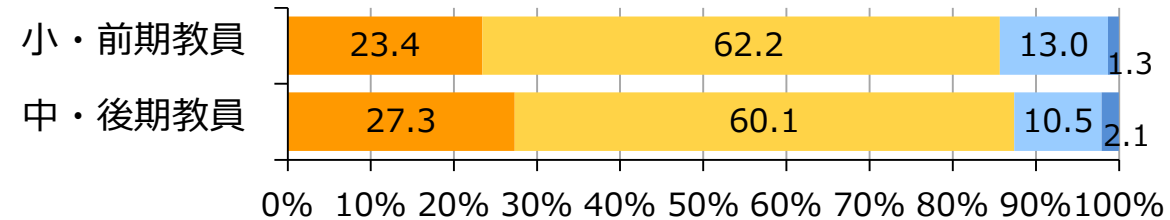
【子-7 市民科全般②】

6年…日常生活をよりよく生きるうえで役立っている。
9年…日常生活をよりよく生きるうえで役立っている。



【教-7 市民科全般②】

子どもたちが日常生活をよりよく生きるうえで役立っている。



【肯定的回答割合】

6年生児童…84.1%
9年生生徒…92.5%
小・前期教員…85.6%
中・後期教員…87.4%
【傾向】
・肯定的回答の割合が、どれも80%を超えている。
・9年生、中・後期になると肯定的回答の割合増加

【子-自 自由記述】

(1)「印象に残っている授業」で多かった意見

- ・体験的、実学的な学習内容
スチューデント・シティ、ファイナンス・パーク、CAPS、職業体験など将来設計領域に関する内容、いじめ防止に関する内容など。
- ・人との関わりに関する内容
学級会や話し合い活動に関する内容、人権意識や生命尊重に関する内容、様々な方から職業について話を聞く内容など。
- ・学校行事関係
学習成果発表会、修学旅行、周年行事など行事に関連する内容

(2)「日常生活に生かしていること」で多かった意見

- ・友達との関わり方、他者とのコミュニケーションに関する内容（言葉遣い、思いやり、相手への尊重、協力、いじめ防止、信頼関係の構築など）
- ・自己管理・生活習慣に関する内容（早寝早起、挨拶、公共マナー、目標設定など）
- ・児童では内面に関する内容（ストレス対処、感情コントロールなど）
生徒では地域や社会との関わりに関する内容（地域行事参加、共助の視点など）

(3)「その他思ったり考えたりしたこと」で多かった意見

- ・授業についての好意的意見（授業の楽しさ、実学的な学びの価値、体験的な学び・実践的な学びの効果など）
- ・改善に関する意見については以下の内容が見られた。
授業時間の確保（行事との兼ね合い、考える時間や話し合いの時間など含む）
道徳的価値を扱う授業の充実
地域連携や地域発信の充実

【教-自 自由記述】

(1)「効果やよさを実感している内容」で多かった意見

- ・市民科の特徴である実学的な学習（5つのステップ、具体的な行動変容、日常実践、体験活動、振り返り、自己管理・生活習慣の定着など）
- ・系統性、柔軟性のあるカリキュラム
- ・教科書や指導書の価値（授業のイメージがわく、指導の参考となるなど）
- ・将来設計領域に関する内容（ドリームジョブ、スチューデント・シティ、ファイナンス・パーク、職業体験、進路指導など）。
- ・いじめ防止に関する内容、地域・歴史に関する内容（茶道、地域人材の活用、ボランティア活動など）

(2)「自由記述」で多かった意見

- ・指導する教員にとって、市民科の意義等がより分かりやすい改善が必要
- ・内容過多と授業時間不足（学習内容の精選、行事の精選、教員の余白の創出の必要性、市民科で取り扱う内容についての具体的な周知など）
- ・道徳教育の充実（道徳の教科書の取り扱い、道徳の価値項目の取り扱いなど）
- ・指導に関する内容（研修の充実、指導書の充実、指導方法や実践例の共有など）
- ・教員の異動（初任者含む）に関する配慮（内容の改善、研修の充実）

【傾向】

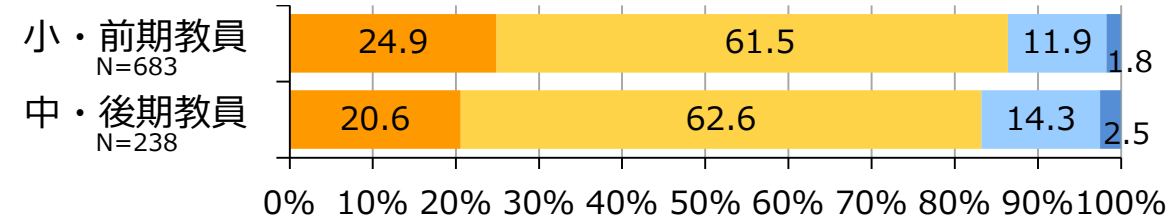
児童・生徒自由記述
(1)の有効回答…91.8%
(2)の有効回答…34.0%
(3)の有効回答…12.8%
教員自由記述
(1)の有効回答…32.1%
(2)の有効回答…20.1%
※有効回答は、未回答（空白）やなし（類似含む）の回答を除いた記述回答があった割合

2 市民科の授業の状況について（教員調査）

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

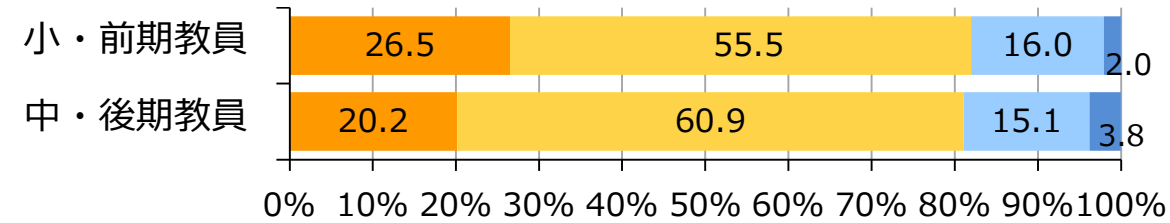
【教-8 授業改善の視点】

児童・生徒の学習状況の把握を通じて、自分の授業での指導の過程や成果を評価し、指導の改善に取り組んでいる。



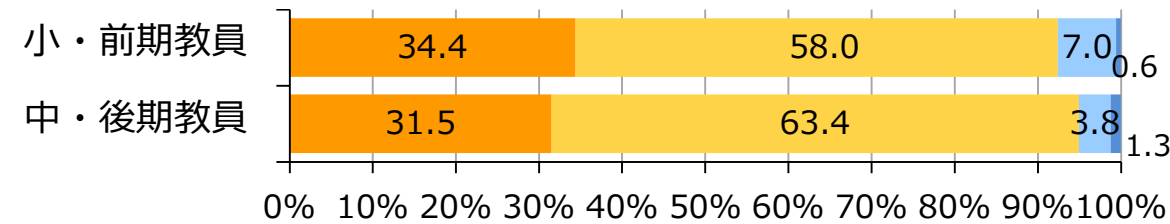
【教-9 授業改善の視点】

学習のつながりや発展など、一貫教育を意識した指導を行っている。



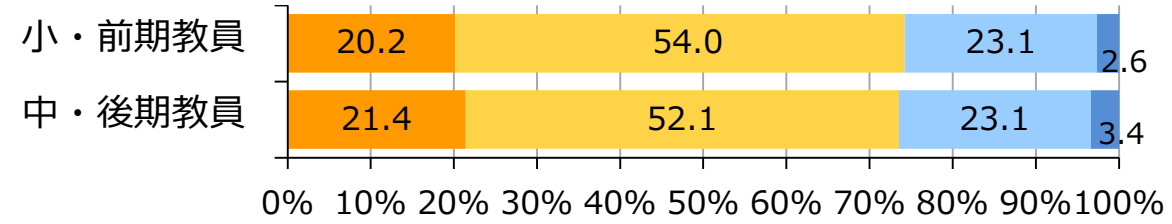
【教-10 授業改善の視点】

児童・生徒が学ぶことと実生活や社会、将来とのつながりについて考えられるようにしている。

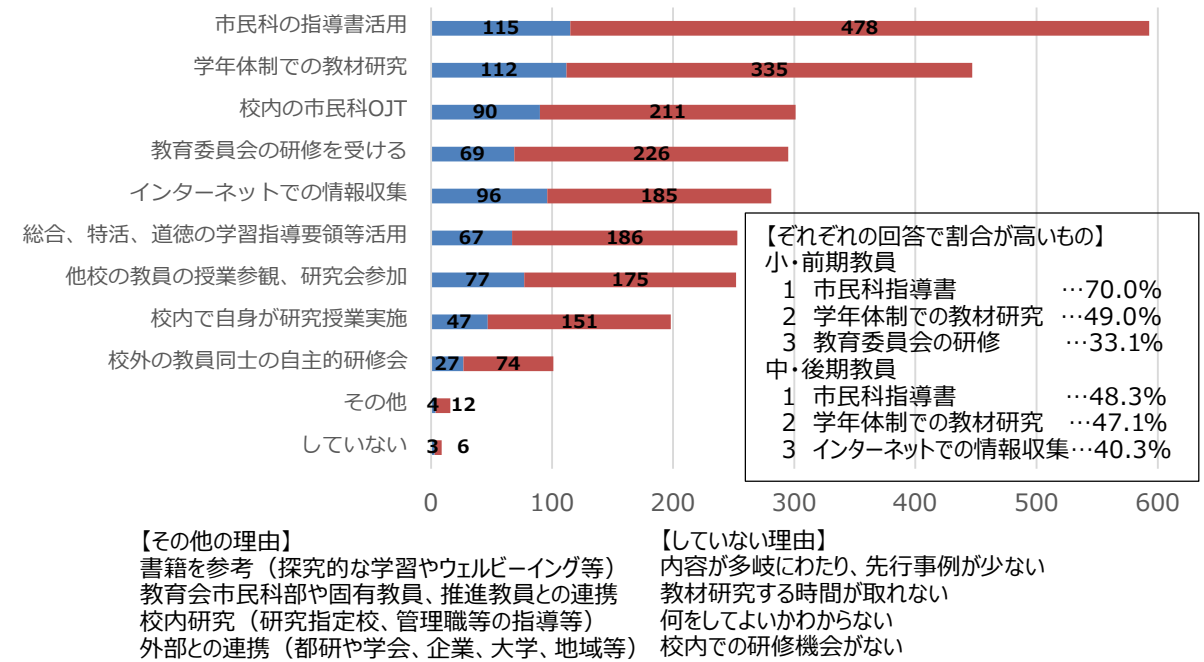


【教-11 授業改善の視点】

指導方法や教材を研究することができる。



指導方法や教材研究方法



【肯定的回答割合】

指導改善小…86.4%
中…83.2%
一貫教育小…82.0%
中…81.1%
将来 小…92.4%
中…94.9%
研究修養小…74.2%
中…73.5%

【傾向】

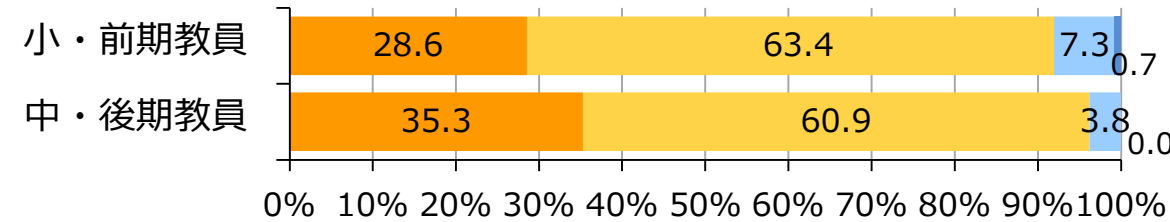
・他の項目と比較して、**研究修養の設問の肯定的回答の割合が低い。**
・指導方法・教材研究の方法として、市民科指導書の活用、学年での教材研究の順になっている。

【R7全国学力・学習状況調査（以下、全国学調）学校質問紙（類似）国との比較】

・教-8と教-11：どちらも**肯定的回答の割合が低い傾向。**
・教-9と教-10：どちらも**肯定的回答の割合が高い傾向。**

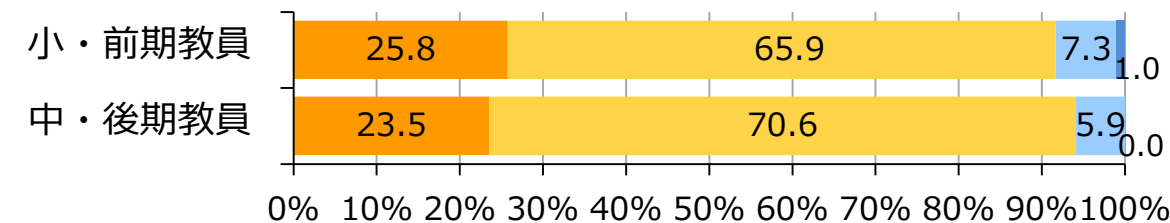
【教-12 総合・特活・道徳に関連した視点】

学級で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っている。



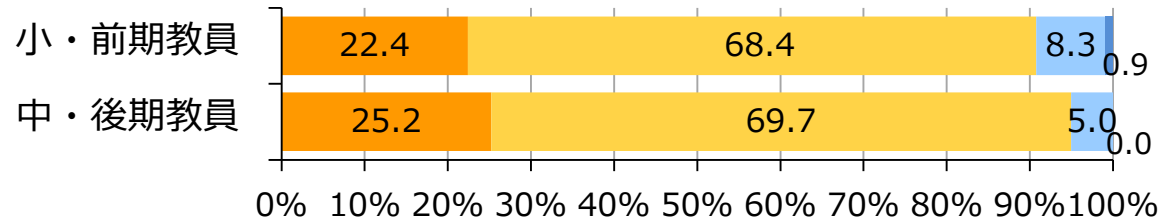
【教-13 総合・特活・道徳に関連した視点】

今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童・生徒が意思決定できるような指導を行っている。



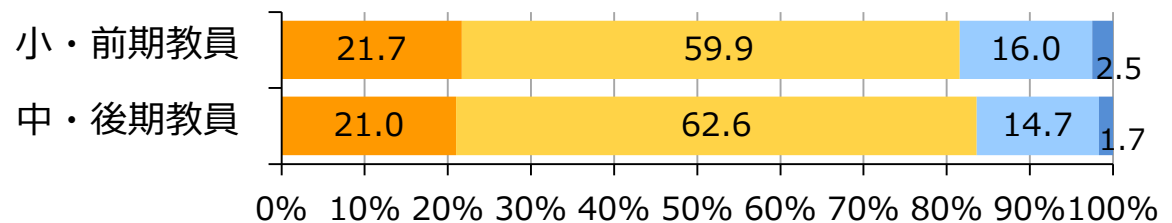
【教-14 総合・特活・道徳に関連した視点】

児童・生徒が学習内容を自分の問題として捉え、よりよい生き方について考えを深めることができるような指導の工夫をしている。



【教-15 総合・特活・道徳に関連した視点】

課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている。



【肯定的回答割合】

合意形成小…92.0%
中…96.2%
意思決定小…91.7%
中…94.1%
生き方 小…90.8%
中…94.9%
探究過程小…81.6%
中…83.6%

【傾向】

・他の項目と比較して、**探究課程の設問の肯定的回答の割合が低い。**

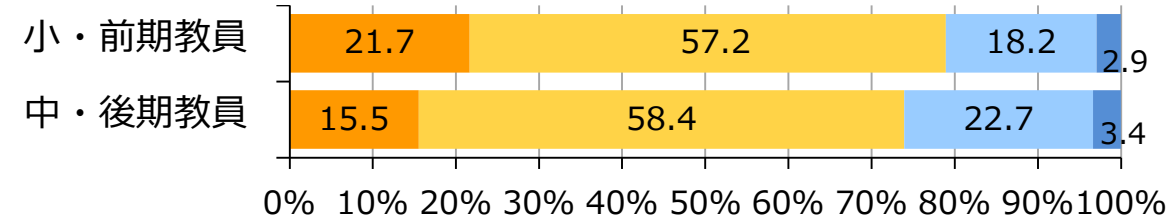
【R7全国学調 学校質問紙（類似）国との比較】

・教-12と教-13：中・後では、**肯定的回答の割合が高い傾向。**
・教-14と教-15：どちらも**肯定的回答の割合が低い傾向。**

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

【教-16 市民科の特徴に関する状況】

単元の学習過程である5つのステップ（把握・認識・習得・実践・深化）があることで、効果的に学習を進められている。

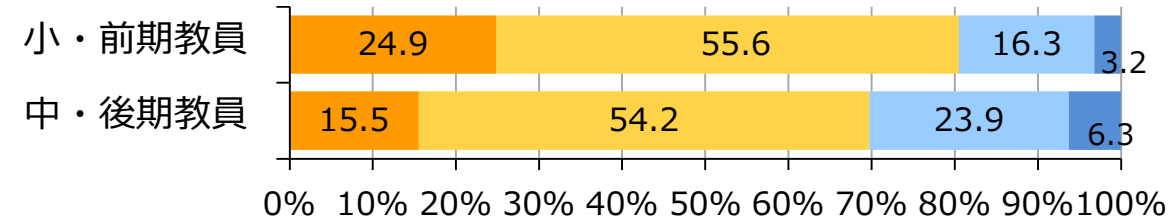


【意見等】

- 教員、児童・生徒が流れを意識した学習を展開できる、スモールステップで学習を進められるなど、多くの教員が示す効果を感じている。
- 学習内容過多によりステップにそった学習を進めることに課題を感じている教員が多い。
- 現状のステップでは、わかりにくい内容もあり、さらにわかりやすく示してほしいと感じている。
- 教員の理解不足が課題として挙げられている。指導の充実に向け、研修や各学校の実践例の共有など必要としている。

【教-17 市民科の特徴に関する状況】

教科書や指導書は市民科の授業を進めるうえで効果的に活用できている。

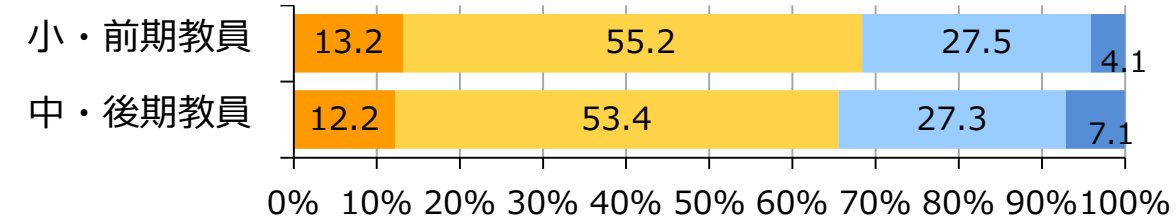


【意見等】

- 教科書、指導書は、指導する教員にとって参考になる。内容もわかりやすく精選されており、授業の一定の水準を保てる。
- 教科書は資料、イラスト、教材など実際に授業で活用している。指導書はさらに、実践例やワークシートなど充実していくとよりよいものになる。
- 実態にそぐわない内容の更改、特別の教科道徳の教科書の活用の明示が必要。
- 指導書を参考にしながら、教員が創意工夫する授業をしていく必要がある。そのためには、指導内容の精選、教材研究できる時間の創出が必要。

【教-18 市民科の特徴に関する状況】

一貫プランについて、一貫教育の視点から各中学校区で目指す児童・生徒像などを設定することで、連携した取組が行えている。

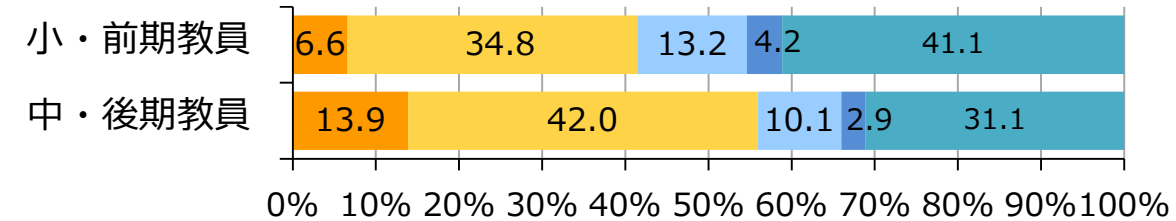


【意見等】

- 一貫した視点は、区の子どもたちを育成していくうえで重要な視点である。教員をはじめ、子どもたち、家庭、地域が共通認識をもつことができる。
- 校区教育協働委員会や中学校区など近隣校との連携を行うことができているといった意見と校区での連携が図られず連携・共有の機会が少ないといった意見が混在している。
- 実際意識している教員は少ないのでは。授業参観、協議、研修など物理的な機会・時間の創出が必要であるが、やるが多すぎてその時間の創出が難しい。

【教-19 市民科の特徴に関する状況】

一貫プランにおける探究的な学習の時間設定 35 時間は適切である。



【意見等】

- 探究的な学習を実施していく流れだが、探究的な学習を推進していくための指針や行事の精選が必要。
- 探究的な学習の浸透が十分ではないため、実践しながら理解を深めていく必要がある。
- 探究的な学習についての、理解が一律でない。時間数について、適否を判断できる素地となっていない。
- 市民科（学習）で取り扱う内容が多く、探究的な学習を実施する時間数を確保することが難しい。とれたとしても時間数が限られる。

【肯定的回答割合】

ステップ 小…78.9%
中…73.9%
教科書等小…80.5%
中…69.7%
一貫プラン小…68.4%
中…65.6%

【傾向】

- ・それぞれ理念については、意義を感じている傾向である。
- ・推進に向けては現状の内容の充実に向けた内容の改善、連携・共有の充実、内容や時数を精選することが必要であると感じている。

【わからないの回答割合】

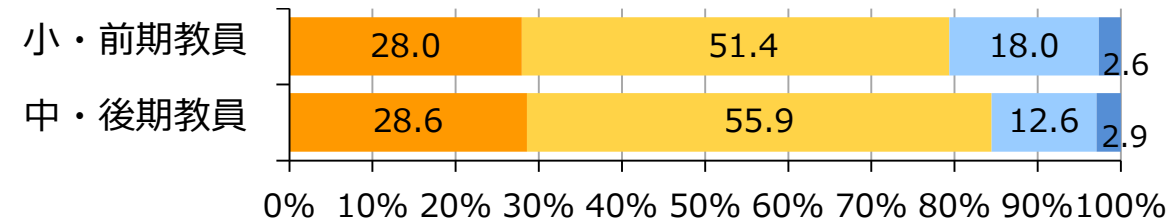
探究 小…41.1%
時間数 中…31.1%

【傾向】

- ・どちらも「わからない」の回答割合が一定以上ある。
- ・記述内容から、探究的な学習として必要な時数を判断しての回答ではない傾向（必要な時間数を判断する素地が整っていないこと、そもそもの時間数の確保を課題として捉えている様子）。

【教-20 家庭・地域との連携に関する状況】

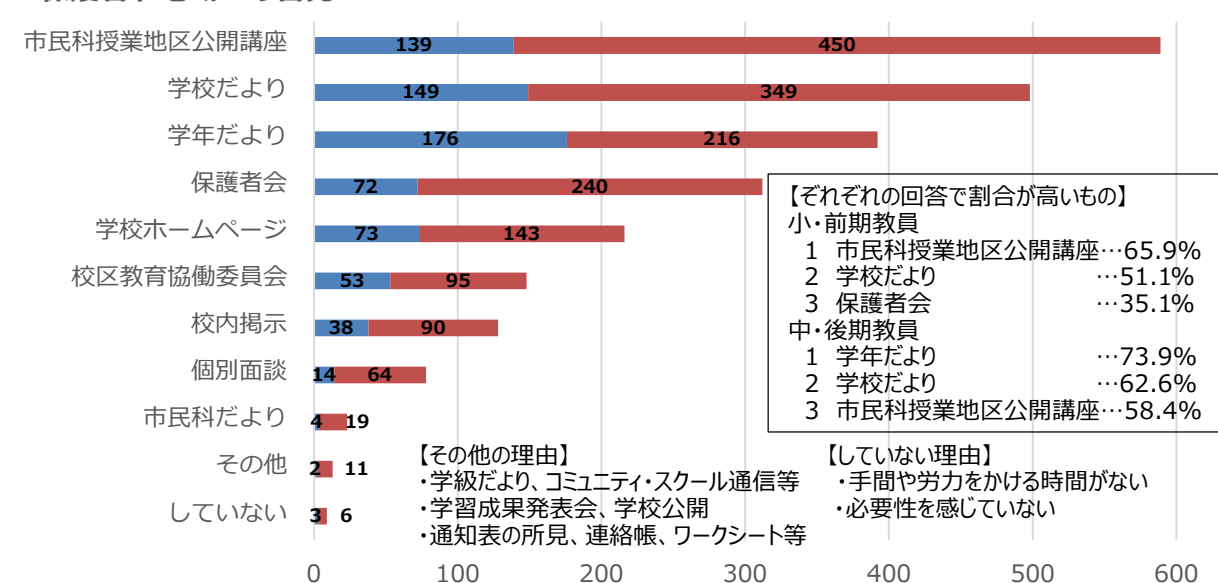
市民科の授業において、地域等の人材を効果的に活用できている。



【意見等】

- 学校地域コーディネーターの尽力に感謝している意見が多く、成果として多くの外部講師の活用や地域と連携した取組を実施することができている様子。
- もっと活用していきたいが、そのための時間がない（授業・行事が多いため、地域との連携や人材探しをする時間がない等）。
- 教員、学年によって活用のばらつきがあり、学校地域コーディネーターを活用したことがない様子も少なからずある。
- 地域とのつながりをつくるのが難しい。地域の人材は眠っていると感じている。
- 教員、学校地域コーディネーターで探す限界（時間や労力、得意・苦手分野など）。

保護者や地域への啓発



【それぞれの回答で割合が高いもの】
小・前期教員
1 市民科授業地区公開講座…65.9%
2 学校だより…51.1%
3 保護者会…35.1%
中・後期教員
1 学年だより…73.9%
2 学校だより…62.6%
3 市民科授業地区公開講座…58.4%

【その他の理由】
・学級だより、コミュニティ・スクール通信等
・学習成果発表会、学校公開
・通知表の所見、連絡帳、ワークシート等

【していない理由】
・手間や労力をかける時間がない
・必要性を感じていない

【肯定的回答割合】

人材活用小…79.4%
中…84.5%

【傾向】

- ・多くの教員が学校地域コーディネーターの役割の意義・効果を感じている。
- ・学校地域コーディネーターとの未連携を含め、情報共有が十分ではない一面がある。
- ・「市民科授業地区公開講座」、「学校だより」、「学年だより」の順で保護者や地域への啓発を実施している。

3 各調査項目の相関について（教員調査）

【教-21 小学校・前期課程】

相関	教員歴	品川区歴	市民科について（子供の様子）	授業改善の視点	総合、特活、道徳との関連	市民科の特徴	地域等の人材活用
教員歴	1						
品川区歴	0.61561	1					
市民科について（子供の様子）	0.086196	0.116247	1				
授業改善の視点	0.063237	0.091681	0.704166	1			
総合、特活、道徳との関連	-0.01251	0.032961	0.648724	0.739993	1		
市民科の特徴	-0.01142	0.054405	0.645155	0.690812	0.623274	1	
地域等の人材活用	0.075365	0.084995	0.360532	0.289387	0.297236	0.290198	1

【相関が見られる項目】

項目 1 と項目 2 には中程度の関連がある。
項目 3 と項目 4 には強い関連がある。
項目 3 と項目 6 には中程度の関連がある。
項目 4 と項目 5 には強い関連がある。
項目 5 と項目 6 には中程度の関連がある。

- ・項目 1 と項目 7 は弱く関連する可能性がある。
- ・項目 3 と項目 5 には中程度の関連がある。
- ・項目 3 と項目 7 には弱い関連がある。
- ・項目 4 と項目 6 には中程度の関連がある。

【傾向】

・教員歴や区歴の年数について、相関がみられる項目はなかった。
・「子どもの様子」「授業改善の視点」「総合・特活・道徳の関連は」、小学校・前期課程、中学校・後期課程ともに強～中程度の相関が見られている。

【教-22 中学校・後期課程】

相関	教員歴	品川区歴	市民科について（子供の様子）	授業改善の視点	総合、特活、道徳との関連	市民科の特徴	地域等の人材活用
教員歴	1						
品川区歴	0.651408	1					
市民科について（子供の様子）	0.082834	0.109097	1				
授業改善の視点	0.011387	0.087966	0.708633	1			
総合、特活、道徳との関連	-0.09371	-0.06988	0.572212	0.611793	1		
市民科の特徴	0.054822	0.023971	0.660247	0.714331	0.532805	1	
地域等の人材活用	0.127307	0.055406	0.484455	0.366199	0.332207	0.389966	1

【相関が見られる項目】

項目 1 と項目 2 には中程度の関連がある。
項目 2 と項目 3 は弱く関連する可能性がある。
項目 3 と項目 5 には中程度の関連がある。
項目 3 と項目 7 には弱い関連がある。
項目 4 と項目 6 には強い関連がある。
項目 5 と項目 6 には中程度の関連がある。
項目 6 と項目 7 には弱い関連がある。

- ・項目 1 と項目 7 は弱く関連する可能性がある。
- ・項目 3 と項目 4 には強い関連がある。
- ・項目 3 と項目 6 には中程度の関連がある。
- ・項目 4 と項目 5 には中程度の関連がある。
- ・項目 4 と項目 7 には弱い関連がある。
- ・項目 5 と項目 7 には弱い関連がある。

4 分析と考察

※今後の変容を見ていくうえで、継続的に実施していくが、実施の際は他の調査との関連や負担面等の配慮を行いながら検討をしていく。

【成果と考えられる点】

- 20年間指導を展開してきた中で、各項目、児童・生徒、教員からの肯定的な意見が多く見られた。本区における市民科は児童・生徒にとって、一定の成果がある学習である（子-自 教-自）。
- 将来設計領域に関わる内容が印象に残る授業、効果や価値を感じる内容として意見が多く、自己管理領域、人間関係形成領域に関わる内容が日常生活に生かしていることで意見が多い（子-自 教-自）。
- 自己管理領域および将来設計領域、自己の生き方に関する内容において、学年が上がるにつれて肯定的回答の割合が増えている（子-1、子-5、子-7 教-1 教-5、教-7、教-10）。

【今後検討が必要であると考えられる点】

- 市民科の理念・目標
 - ・指導する教員（初任者や異動者）にとって、意義や価値、内容（特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習との関連を含む）などをより分かりやすく示してほしいと考えている（子-自 教-自）。
 - ・道徳教育の充実（教科書、価値等の扱い）について期待する意見が見られる（子-自 教-自）。

⇒児童・生徒、教員、家庭、地域等に向けよりわかりやすい市民科の構築（理念・目標等）を進めていく。
- 市民科の学習内容
 - ・授業時間の確保（子-自）
 - ・肯定的回答が多い反面、「時間がない（学習内容や行事の過多、教材研究等の時間の確保）」と回答する意見が特に目立つ（教-11、教-16、教-17、教-18、教-19、教-20）。
 - ・ステップや指導書については効果を感じている意見が多く、さらにより分かりやすい学習過程や使いやすい教材が求められている（子-自 教-自、教-16、教-17）。

⇒領域・学習内容の精選が喫緊の課題。既存の領域や学習内容を見直し、市民科の再構築を図ることができるようにしていく（教科書や指導書の内容についてはその後の検討）。
- 地域との関わりについて
 - ・児童・生徒の設問から、「友達⇒地域」と対象が変わると肯定的な回答の割合が低下している傾向があり、連携や発信の充実に向けた意見が見られる（子-2、子-3、子-自）。
 - ・他の領域との比較で、「文化創造領域」「市民科全般①」の肯定的回答の割合が低い傾向であり、関連性が強い地域との関わりの影響が考えられる（子-4、子-6 教-4、教-6）
 - ・各校、学校地域コーディネーターとの連携に価値を感じている。一方で、連携が十分に図られていない様子も見られる（教-20）

⇒地域との関わり充実、連携強化が必要。市民科の研修時にも地域コーディネーターとの連携を図る。また、現在進めている探究的な学習の中で地域との連携充実、地域発信を図っていく。
- 探究的な学習
 - ・探究的な学習について「知らない」「わからない」の回答が多く、そもそも探究的な学習の捉えが十分ではない（教-19）。
 - ・探究的な学習を推進していくための拠り所が少ないことや行事や授業に追われ研究をしていくための時間がないと考えている（教-19）。

⇒区の方針を示し、実践・振り返りを行いながら、区の探究的な学習を充実・発展していく（時間数については、国の動向や実践の様子を見ながら判断していく）。
- 教員へのフォローアップ
 - 指導方法や教材研究について十分ではないと考えている教員が一定数おり、特に区歴の浅い教員が多い傾向である（教-8～教-11）。
 - 授業改善への意識が市民科の充実につながる傾向であり、効果的な研修や好事例の共有など充実していく必要がある（教-21、教-22）。

⇒市民科に関する研修を含め、授業改善の視点を取り入れた研修を実施・充実していく。

5 今後に向けて

(1) R7 検討委員会での協議内容

【市民科再構築にむけての取組】

- | | | | |
|---|---|---|---|
| <p>(1) 理念（市民科の役割・意義）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 持続可能な内容、体制づくりへ向け、20年間の市民科の振り返りとして、児童・生徒、教員への調査を実施。➡①・ 市民科の資質・能力である「市民として社会を形成する力」について、検討（特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習との関連等）。➡① | <p>(2) 市民科の充実</p> <ul style="list-style-type: none">・ 学習プロセス（5つのステップ）の内容を見直し、再構築。➡①・ 一貫プラン・探究的な学習の在り方について検討し、探究的な学習を推進。➡②④・ 授業改善の推進（価値の教え込み、スキルトレーニングなど画一的な指導からの脱却等）。➡⑤ | <p>(3) 学習内容について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 学習内容の整理・精選（体験学習、市民科学習や一貫プランなどの整理等）。➡②・ 道徳、特別活動、総合的な学習の教材研究を生かせる授業づくり。・ 独自教材（教科書、指導書等）の扱い検討。 | <p>(4) 推進体制について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 教委内の推進体制の充実。➡③⑤・ 人材育成に向けた体制づくりの充実（研修機会、研修内容の充実）。➡③⑤・ 家庭・地域との一層の連携強化。➡③③・ 固有教員との連携充実。➡③ |
|---|---|---|---|

(2) 現在の取組状況

①【児童・生徒、教員調査】令和7年11月～12月実施（Forms）

- ・ 調査項目 児童・生徒：市民科について（選択・記述）
教職員：市民科について、市民科の授業の実施状況について（選択・記述）
- ・ 調査対象 児童・生徒：各学校最高学年の児童・生徒
教職員：管理職、教員（市民科を指導したことがある教員）

②【一貫プラン・探究的な学習】

- ・ 構想図、年間指導計画、単元指導計画作成の手順・考え方・様式を提示
これまでの教育課程補助資料を更新、教育課程説明会時に説明
- ・ 各学校の取組事例の共有
今年度の各学校の事例を教委で集約し、共有化を図る。

③【推進体制について】

教委内の推進体制の充実

- ・ 研究校の指定、市民科調査研究会の実施、学校訪問等
- ・ 探究的な学習の推進に向けた支援
- ・ 各学校の実践事例の集約・共有、資料共有の場の設定 等

人材育成に向けた体制づくりの充実

- ・ 4月に校内研修期間を設定
- ・ 市民科悉皆研修を実施（参集及びオンデマンド配信）
- ・ 市民科推進教員向け研修を学期に1回実施（教務主任会との連携含む）
- ・ 推進教員向け研修において、市民科授業公開設定（小・前期、中・後期1本ずつ）
- ・ 教育会市民科部会との連携

家庭・地域との一層の連携強化

- ・ 市民科授業地区公開講座の充実
…市民科についての講話や児童・生徒会活動が中心となった取組やコミュニティスクールデイを活用した地域との連携等、実施方法・内容を工夫
- ・ 市民科の発信（学校だより・市民科だより等）
- ・ 関係部署との連携（学校地域コーディネーターとの連携・共有等）

固有教員との連携充実

- ・ 市民科調査研究会、区教委主催の研修等への参加（授業公開、事例報告等）
- ・ 統括副校長等による学校訪問（市民科授業地区公開講座、市民科授業参観）
- ・ 固有教員研修の充実（区のエデュケーション推進）

(3) 調査結果を踏まえた今後の取組の方向性

①【市民科の構築】

- ・ 市民科学習の資質と能力について、国の改訂の動向を踏まえながら3つの資質・能力で整理する方向で検討する（これまでの資質と能力を理念や目標の中に入れていく）。
- ・ ステップについて、示すよさを生かしながら、市民科学習および一貫プラン・探究的な学習それぞれの学習過程を示す方向で検討する。

②【既存の学習内容の整理・見直し】

- ・ 市民科の取り扱い（市民科学習内容、行事の取り扱い等）に関する通知を年度当初に発出し、適切な教育課程の取り扱いについて改めて周知する。
- ・ 教科書を活用した学習内容、教科書以外の学習内容（国、都、区で新たに推進が示された内容等）を学年ごとに抽出し、市民科調査研究会において、授業時数と学習内容の整理を進める。

③【地域等との関わりの充実】

- ・ 市民科研修および学校地域コーディネーター連絡会等の機会を捉え、相互の連携・共有を進めていく。
- ・ 市民科校内研修の対象に学校地域コーディネーターを明記し、校内での連携・共有の機会としていく。
- ・ 学校地域コーディネーターとの連携のフローについて、市民科研修でも取り扱い活用の促進を図る。

④【一貫プラン・探究的な学習の推進】

- ・ 教育課程補助資料の確認、指導主事等による学校訪問等を進め、各学校における探究的な学習の実施を推進していく。
- ・ 地域や企業等との体験活動の充実に向けた支援体制を整えていく。
- ・ 探究学習支援アプリの活用等、子どもたちが自ら課題を見付け、探究的な学習を自走できる環境を整えていく。

⑤【教員へのフォローアップ】

- ・ 市民科研修資料「市民科学習編」「授業改善編・探究的な学習編」を作成し、4月第1週の校内研修期間での利活用を進める。
- ・ 第1回市民科研修において、各学校の事例紹介・校区での協議・共有の時間を設ける。
- ・ 第2回市民科研修においては、授業実践を行い実際の授業を通して、市民科についての理解を深めていく。

区の独自教科として、より発展的に推進していくために、持続可能な内容、体制づくりを引き続き検討していく